

## 「ガバナー補佐制度への新しい取組」

国際ロータリー第2640地区IM5組

ガバナー補佐 大村 充 (藤井寺ロータリークラブ)



平原ガバナーの本年の方針で、「公式訪問を通じて問題になったことを、ガバナー補佐を中心にしてグループ協議会を行い、十分論議のうえクラブの活性化を行おう」ということがあり、それを12月度のガバナーメッセージに書いておられます。

ガバナー補佐という職務に、明確な目的を与え、効果を期待するという意味で、私はDLPの一步前進であると感じました。

ところでガバナー補佐というポジションについて皆様、どのようなイメージをお持ちでしょうか？

私はガバナー補佐に任命された当初、どのような手順で何をすればいいのかが、よくわかりませんでした。もちろんクラブ協議会や公式訪問は毎年のことですから、お受けするクラブ側としてのイメージはあるのですが、他の担当クラブはどうなっているのか？具体的には協議会は例会前か、例会後なのか？協議会後に感想をお伝えする講評は卓話の時間かそうでないのか？そんなこともわかりません。はっきりしたイメージを掴めないままにスタートしてしまいました。

で、ふと感じたのが、ガバナーには研修のプログラムが用意され、ノミニーの時代からパストガバナーの方と研修チームを組んで実際の年度に望みます。

大事な職責で成果に期待するとされるガバナー補佐ですが、このポジションにもそういった研修や引継の仕組み、プログラムが必要ではないでしょうか。

そこで私の担当のIM5組では現ガバナー補佐やパストのガバナー補佐が「効果的なガバナー補佐の仕組み」について話し合い、5組内の新しい方法として、パストガバナー補佐と現ガバナー補佐と、次期ガバナー補佐が一体となって、引継や研修などを行う取り組みを始めました。単年度の平面的なガバナー補佐のありかたを、複数年度に渡る立体的なものにしようという取り組みなのです。

こうすることで、ガバナー補佐の職務に関係する人数は増え、幾多の過去の経験も活用できます。またガバナー補佐は各クラブからバランスよく選出されてくることに着目し、

補佐間での情報の共有や、ガバナーや地区委員会からの伝達事項も、現や次期やパストのガバナー補佐数人がこれらを受け持つことで、組内の全クラブへ直接、ホットにお伝えすることが可能になります。もちろんクラブからガバナーや地区委員会への伝達も同じように行えます。また、新しいガバナー補佐を現やパストが支える仕組みとなるので、心理的負担の軽減にもなるのではないのでしょうか。

まだ試行錯誤の途上ですが、今後、このガバナー補佐の立体的な仕組みをよりよいものにしていくため、そしてなによりクラブ運営に、ガバナー補佐がもっと役立つように、さまざまな面からパスト、現、次期のガバナー補佐で討議を重ねていきたいと思います。最後に、この仕組みを切望したのは何を隠そう、不安でいっぱいなままにガバナー補佐をスタートした私自身であったことを付け加えます。

(RI第2640地区マンスリーレター・2008年1月号より)